

地域合同避難訓練（落合校地）

目的	訓練を通じて、生徒及び教職員の防災意識を高めるとともに、高校生に出来ること、本校に出来ることを認識し、迅速かつ安全に行動できる能力と判断力を身につける。
場所	落合校地（真庭市垂水448-1）
期日	平成24年10月17日（水）
参加者	普通科・看護科・専攻科生徒（371名）、 落合小学校、落合こども園、真庭市危機管理課、真庭市落合支局 地域住民、真庭消防署、地域消防団、校外関係者30名
取り組み内容	<p>☆準備1 地域防災会議の開催 ☆準備2 防災リーダーによる「高校生にできること」検討 ☆準備3 防災リーダーによる校内避難所備品の調査・表示</p> <p>★実施想定 ○緊急地震速報（テスト）後、南海トラフを震源とする巨大地震・津波が発生。（震度5強：岡山県北部） ○地震に伴い、落合小学校・落合こども園では、避難誘導の必要性が発生。 ○台風の接近により、落合垂水地内に浸水被害。地域の避難場所を本校に開設。</p> <p>★訓練実施内容 ①自らの身を守る避難訓練：避難行動と人員の掌握 緊急地震速報機による放送と避難指示 ②落合高校防災本部の設置、被災状況の掌握 ③避難所の設置と周辺住民の誘導：校内の説明 ④落合こども園への避難補助員派遣と避難誘導補助 ⑤落合小学校への避難補助員派遣と避難誘導補助 ⑥救護所の設置と負傷者救護訓練、トリアージシミュレーション ⑦非常時の湯沸かしシミュレーションと炊き出し ⑧搬送訓練 ⑨消火訓練（屋内消火栓・消火器） ⑩物資（土嚢）運搬訓練・土嚢積み（雷雨のため説明のみ実施） ⑪伝達伝令訓練（真庭市落合支局・小学校・こども園・本校）</p>
まとめ・評価	<p>教員が意識を高める必要性を再認識した。生徒の訓練だけではなく、教員の訓練と準備が第一との認識を共有できた。</p> <p>小学校と比較して、高校の防災意識はまだまだ低いことがわかった。また、地域住民の方からも、「地域の高校が避難所になっていることは知っていたが、学校の中に入ったことはなかった。「知る」ことができて、安心感が高まった。また、高校生が、実際に動く様子を見て、とても頼もしく思った。」などの意見があり、地域の学校としての責任を改めて自覚した。</p> <p>こち防のリーダーが活躍してくれた。彼らのリードにより、各班の活動にもメリハリがでたと考える。教員の指示だけでなく、生徒間の意識が伝わったものと考え。各班の役割と防災上の意義を、生徒自身が認識していないと、実際にやる生徒は一生懸命でも、見ている生徒のモチベーションがすぐに下がってしまう。意識を涵養するには、緊急の訓練形式よりも事前の研修（LHR）が必要である。</p>



こち防ヘルメットと班別のゼッケン



看護を学習している生徒
ならではの救護訓練



落合こども園支援班



情報掲示板・通報連絡班



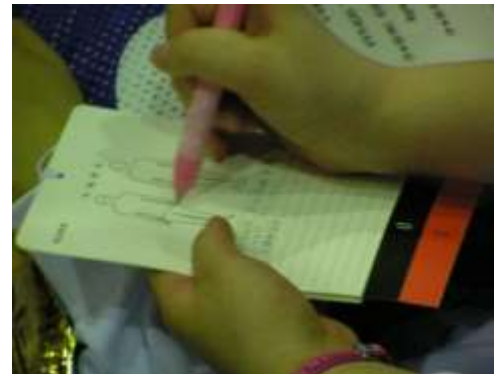
住民誘導班・炊き出し班



警備班負傷者搬送中



小学校支援班



トリアージタッグ